

河北新報

2023年(令和5年)
4月6日(木)

河北新報社
〒980-8660
仙台市青葉区五橋1-2-28
www.kahoku.co.jp

「東」は、未来



総合案内 022(211)1111
読者センター(211)1447
ご購読申し込みは
オオク ミナヨム
0120-09-3746

再生へ心ひとつに

東日本大震災関連記事

桜とにぎわい 未来願う



ミシマザクラをコンテナで植える渡辺さん(右側)と小島さん(左側)ら

東日本大震災 12年

山元・花釜・牛橋地区 町道沿いに180本植樹

東日本大震災で津波被害を受けた山元町沿岸部の牛橋、花釜地区をつなぐ町道沿いに、東京都と静岡県の計3団体から復興支援で贈られた桜の苗木計180本が植えられた。団体のメンバーも町を訪れて植樹に参加し、町民と共に桜の成長を願った。

公益財団法人日本さくら
の会(東京)とNPO法人
日本沙灘緑化実践協会
(同)、NPO法人三島緑
の会(静岡県三島市)が寄
贈した。品種はミシマザク
ラやシタレザクラ、カワツ

東京と静岡の団体寄贈 「5年後には大木に」

津波で多くの建物が流失し人口が減った両地区に、桜を植えて景色に潤いとにぎわいを創出したいと願う地域住民の声に応えた。自治会役員らが3月上旬、震災後に内陸移設されたJR常磐線の線路跡に整備された町道「頭無西年橋線」沿いで植樹を開始。29日には、緑化実践協会と三島緑の会の計約30人が町民十数人と花釜区交流センター周辺に最後の苗木12本を植え、作業が完了した。花釜区長の渡辺博孝さん(75)は「多くの人が集って花見が楽しめるようになるといい。丁寧に手入れしていききたい」と苗木を見つめた。三島緑の会相談役の小島善明さん(85)は「今頃はほとんどのミシマザクラが、5年後には10センチ以上の大木になる。きれいな白い花を咲かせるので、また見に来たい」と語った。

前向きな「終活」サポート 柴田町

柴田町は町民が人生の最後まで自分らしく過ごせる環境を整えようと、「終活」の関連サービスを展開する鎌倉新書(東京)と終活

協定 65歳以上の高齢者の割合が月末時点で31%で、今後も高齢化が見込まれる。終活の認知度も高く、希望者も多いという。

